

LHさんからの質問

鈴木貞美→LH(20110509)

- 1、先生の書かれた『言語一致と写生』再論—『た』の性格』（『国語と国文学』82 2005年7月）を読ませていただきました。原文の14ページにある「五 小説における『た』の性格」の第一段落によると、「二葉亭四迷が翻訳をする際に過去時制の「た」を用いるようになった」とありますが、それは小説ではもともとの「た」は過去時勢ではなかったととらえてもいいのでしょうか。
- 2、「四 明治以前の『言文一致体』」の最初の段落ですが、室町時代から徳川時代前半にかけて民衆の口語ではすでに過去、完了を表す「た」を使っていたのですね。それはつまり口語では書き言葉よりも前に過去や完了を表す時制が現れたということによろしいのでしょうか。

今のところでは、以上二つしか質問できないのですが、これから「言文一致体における時勢の総発」をよみます。

- 3、確か昔のメールでは、書き言葉に於ける中国語が日本語への影響はまだ研究する余地があるとおっしゃられた覚えがありますが、具体的にお願いできますか。よろしくお願ひします。

回答

- 1、「二葉亭四迷が翻訳をする際に過去時制の『た』を用いるようになった」と一部の人に言われていますが、正しくは「完了」の助動詞です。古代の物語の「たり」が「た」に変化したものです。ですから、一部の人のいう説は、まちがいです。なんでも西洋の影響で、明治に新しいものが始まったと考える癖によるものです。『「日本文学」の成立』というわたしの著書に、より詳しい注をつけてあります。
- 2、民衆の口語そのものは、テープレコーダがなかったわけですから、実情はわかりません。中世から江戸初期に民衆の話しことばを聞き書きしたものや、会話を書いた文に「た」が現れるということです。
- 3、古代からの中国語と日本語の関係の全般について、白話(口語体)の影響、口語体のことなど、ちょうど今週、5月16日発売の『日本語の「常識」を問う』（平凡社新書）にかなり噛み砕いて書きました。学術論文ではないので、引用出典のページナンバーなどありませんが、これまでの俗説を批判した本です。読んでみてください。